

# 津田かおり 通信



市議会の9月定例会本会議、予算特別委員会が開催されました。皆様のご意見を市政に反映すべく、質問に立たせていただきました。未だ終息が見えないコロナ禍との長期戦。一人の声を大切にしながら市民の皆様の安心安全のために全力を尽くしてまいります。



## 議会報告レポート（要旨）

### 1. 児童・生徒一人1台の端末整備について

パソコン端末を1人1台に！



#### ① 一人1台のコンピューター端末の実現

本年3月の議会で、GIGAスクール構想について「令和5年度までに、全ての児童生徒に端末を整備」との答弁であった。しかし、4月にコロナ感染拡大にともなう休校により、文科省は小中学生一人1台のパソコン端末を配備する計画を前倒しして、国庫負担分は今年度末までに実現する方針を決めた。そこで福井市としても、今年度中に全ての児童・生徒に端末が整備されるという認識でいいか。

答弁（吉川教育長）

これまでに整備をしてきた端末と、国が整備するGIGAスクール構想による3分の2、今回の補正予算分で今年度中に整備することになる。既に整備されている端末は、令和5年度までに順次同じ端末に更新していく予定である。

#### ② 端末の家庭学習での使用

今回の整備は、コロナ禍において子ども達が学校に行けなくなった場合に備え、家庭でできるオンライン学習の環境を整える必要性が出てきたためであるが、この端末は、家庭学習に使用できるものか。

答弁（吉川教育長）

今回の整備は、校内でのネットワークセキュリティの設定がしてあり、端末を家に持ち帰って使うためには、それぞれのネットワーク環境に接続するために個別に設定する必要がある、家庭に持ち帰って利用することはすぐには難しいと考えている。しかし、コロナ禍の時代に対応できるようオンライン授業が可能となる整備も重要と考えている。今後研究を進めていく。

#### ③ Wi-Fiモバイルルーターの整備

文科省は、緊急時における家庭でのオンライン学習の環境整備に予算を組んでいる。本市としてWi-Fi環境が整っていない家庭に対する貸与等を目的に自治体が行うモバイルルーターの整備はどのように考えているか。

答弁（吉川教育長）

モバイルルーター機器本体の購入費用は国の支援があるが、通信費については支援がない。コロナ禍におけるオンライン授業の整備は、国全体の課題である。この財政措置については全国教育長協議会を通じて国に要望しているところである。



#### ④ 一人1台端末の効果的な活用

端末の活用について、3月議会でQRコードの活用、動画の表示、子ども達の興味・関心を高める授業を進めていくとの答弁があった。皆が一斉に同じことを学ぶだけではなく理解度に応じ学習のし直し、自分のペースで進める等の活用、また不登校をはじめ、様々な理由で学校に来る子ども達の学習支援に役立つものと思う。本市として一人1台端末の効果的な活用について所見を伺いたい。

答弁（吉川教育長）

端末導入後は、二次元コード・動画の表示等、子ども達の興味・関心に応じた授業を進めていく。さらに、特別に支援が必要、習熟度が異なる子どもへの補充的な学習への活用等、子どものニーズに応じたICTの活用を考えていく。また先生方と協同しながら、より一層研究を進めていく。

## 2. プラスチックごみの削減



### ① 福井市の取り組み

7月からレジ袋が全面有料化された。富山県では、2008年に全国で初めて県としてレジ袋の無料配布を廃止し、マイバッグ持参率が95%で全国1位となっている。今後、本市としてもプラごみを減らし、環境保全に貢献していくための具体的な取り組み、マイバッグやマイボトル持参等、改めて市民に広く周知し啓発していくことが重要。本市としての取り組み見解を伺いたい。

答弁（牧野市民生活部長）

平成9年の容器包装リサイクル法の施行より、平成10年からペットボトル、平成15年からプラスチック製容器包装の収集再資源化の取り組みを進めてきた。レジ袋の削減については、福井市くらしの会及び各協賛事業者と協定を締結し、平成21年4月1日よりレジ袋有料化を開始した。ホームページやSNS、広報紙や出前講座、イベントでの展示等、様々な方法でプラスチックごみの削減について、市民の皆様へ広報・啓発に努めてきた。今後も様々な世代の方に、興味を持っていただける新しいテーマを取り上げながら啓発を進めていく。



動画QRコード



9月8日 一般質問より



### ② プラスチック資源の一括回収の方法と見解

政府は、2022年度以降、文具やおもちゃ等のプラスチック製品の分別回収を決めた。本市では、令和8年度に移動予定の新クリーンセンターで、今まで燃やせなかったおもちゃを含むゴミが、安全に燃やせることになる、本市の見解を伺いたい。

答弁（牧野市民生活部長）

現在、文具やおもちゃ等のごみは燃やせないごみとして収集している。今後は、今年度中に策定される国の方針を踏まえて一括回収の方法や周知啓発の進め方などについて検討し、資源循環の推進を図っていく。

## 3. AYA世代のがん患者への支援

### ① AYA世代のがん患者の人数と実態、支援、相談窓口

AYA世代とは？

Adolescent and Young Adult(思春期および若年成人)の略で15歳から39歳くらいまでの世代を指す。

AYA世代のがん患者は、上の世代と比べ患者数が少ないことから、対応の遅れが指摘されている。またこの世代は、進学・就職・結婚・出産・子育てといった大きな節目を迎えるため、精神面、経済面、家庭生活と治療等様々な支援等が欠かせない。そこで本市の人数と実態、またどのような支援がなされているのか伺いたい。また、ぜひこの世代の相談窓口を設け、未来あるこの世代に支援をおこなって欲しい。

答弁（齊藤福祉保健部長）

AYA世代のがん患者は平成27年のデータでは、県全体で202人、本市では15歳～19歳が4人、20歳台が19人、30歳台が56人の合計79人となっている。支援について健康管理センターでは、受付窓口にごん情報誌チラシの設置、がん支援センターやサロン等の紹介を行っている。相談窓口は県内5ヶ所の病院に相談支援センターが設置されている。この相談窓口の周知につとめ、それぞれの年代に応じた適切な支援ができるよう努めていく。

### ② 子宮頸がんワクチンの接種勧奨

国内では、年間約1万人が子宮頸がんを発症し、約3千人が亡くなっている。子宮頸がんは、検診とワクチンで患者をゼロにすることができる唯一のがんである。ワクチンの公費接種の対象が16歳（高校1年）で終わり、その後は5万円程度の費用が自己負担になる。ワクチン接種ができる11歳（小学5年）の女兒には、案内通知が郵送される。16歳には、最後の接種勧奨をすべきである。

答弁（齊藤福祉保健部長）

昨年12月から11歳児の女兒に案内を配布している。今後5年間、毎年の16歳に対し個別の通知等で情報提供を行っていく。



### ③ 小中学校時代のがん教育

今や3人に1人が、がんで亡くなる時代である。AYA世代に入る前の小中学校時代にはがん教育を取り入れていくべき。

答弁（齊藤福祉保健部長）

平成30年度から県が小中高校を対象に出前講座、リーフレットの配布を行っている。さらに今年度から学習指導要領においてがん教育が明記され、学年ごとに段階的にがん教育が実施される。

## 4. 中高年のひきこもり対策と「断らない」相談支援



### ① 相談件数と支援の現状

ひきこもりの50代の子どもを80代の親が自分の年金で生計を立てる「8050問題」。これは、本人や家族だけの問題ではなく社会全体で受け止めるべき大変重要な課題である。民間機関の推計では、全国で200万人いるとされている。現在、自立サポートセンター「よりそい」で窓口、電話、メールにて相談を受け付けているが、相談件数はどのくらいあるか。また、生活困窮者自立支援制度の中で、ひきこもりが長期化した方々の居場所づくりや就労支援を行っているが、現状を伺いたい。

答弁（齊藤福祉保健部長）

令和元年度の自立サポートセンター「よりそい」における相談件数は、延べ320件、そのうち40代が110件、50代が30件、60代以上は37件となっている。就労支援については、市役所でパソコンを学びながらコミュニケーションのトレーニングを実施したり、履歴書作成指導、模擬面接の他、ハローワークと連携した就労支援を行っている。

### ② アウトリーチ支援の実施

本人や家族が相談に向かわず長期化、深刻化しているケースが多い、相談を待つのではなく、こちらから訪問する支援員を配置し、同行相談や信頼関係の構築といった対本人型の「アウトリーチ支援」が必要な段階に来ている。この見解を伺いたい。

答弁（齊藤福祉保健部長）

本市では150人を越えるひきこもりの方を確認、うち40代から60代の方は長期化している。積極的なアウトリーチ支援が求められていることがわかった。このため民生委員との連携を強化し、相談支援員が家庭訪問を行う等、のべ69回のアウトリーチ支援を実施。併せて電話や手紙、メール等支援も継続して行っている。

### ③ 重層的支援体制整備事業への取り組み

さきの国会で、重層的支援体制整備事業が新たに創設されることになった。8050問題もそうであるが、介護と育児を同時に行うダブルケア、虐待やDV、孤独死、ゴミ屋敷等複合的な課題、様々な悩みを抱え困窮する人を支えるには、行政の縦割りを打破し、制度に人を合わせるのではなく、困っている人を中心とした支援へと福祉の大転換を図ることが期待されている。これは永年、公明党が推進してきた「断らない相談支援」であり、誰も置き去りにしない社会を実現する基盤となる事業である。この重層的支援体制整備事業は、来年4月からスタートするが、これに本市はどう取り組んでいくのか。

答弁（齊藤福祉保健部長）

現在、福祉保健部内において、7月から定期的な勉強会を開始し、課題について調査、包括的な相談体制づくりを先行して実施できるよう案をとりまとめている。地域づくりに向けた支援及び参加支援は、地域福祉課で協議、複合的な課題は生活困窮者自立支援制度庁内連絡推進連絡会をベースに、様々な支援制度や各課の課題等について情報共有を行っている。

予算特別委員会質問動画  
QRコード



9月16日 9月17日 予算特別委員会より

## 予算特別委員会での質疑応答（要旨）

### 災害対策について

- ① コロナ禍にあって3密を避けるため、避難所の定員が制限された場合の増設と対策。
- ② 避難所への避難だけではなく、在宅避難や分散避難も大切、この避難方法について市民に対してどのように周知し、取り組んでいくのか。
- ③ 9月4日福井市で震度4を観測した地震では11の学校で、ガラスのひび、壁の破損等の被害が発生した。その後の処置は。
- ④ 学校の老朽化対策は、学校規模適正化のめどが立ってからはじめるとのこと、このたびの地震を考えると、早く始めたほうがよいと思われる。
- ⑤ 防災組織への女性の参画。避難所でのトイレ、着替えや授乳等、女性への課題を反映していただくことが大切、本市の取り組み所見は。



答弁（牧野市民生活部長）

従来の公民館から小学校・中学校へと開設、それでも収容できない場合は、高校・武道館などの県有施設も開設。

建物の2階以上への垂直避難、親戚知人宅への避難、車中泊を含めた避難などの分散避難も有効。市のホームページや市政広報で周知をしている。

専門業者により、修繕補修を実施している。また今回の軽微な損傷は、想定範囲内で、建物の安全性は問題ない。

現在、学校施設の校舎・体育館の耐震性は確保している。短期間で一斉に建替えは困難、多くの施設が耐用年数を迎える。総合的・計画的に判断し、整備を進めていく。

実際、東日本大震災のとき、男性が避難所の運営をしていて、女性特有の要望が伝わらず、女性は大変苦労した。防災組織への女性の参画を促しているが、さらに啓発を促していく。



## 児童館の熱中症対策

本市の児童館のホールには、建物の老朽化とコスト面の問題で、エアコンがついていない。近年の猛暑から保護者から設置への強い要望がでている。なんらかの対策・所見を伺いたい。

## 新生児に対する特別定額給付金

特別定額給付金は、4月27日までに生まれた新生児までが支給対象。しかし、この日以降でも独自で支給している自治体がある。本市としても新生児に対し、独自に支給し、支援をお願いしたい。

## LINEを活用した施策

本市では、道路に穴が開いている、ガードレールが破損している等、交通事故防止のため、ホームページ上で市民に協力を呼びかけているが、これをLINEを活用して市民通報型の道路補修を検討してみてもどうか。

答弁（塚谷教育部長）

児童館では、気温が高い日には涼しい部屋で過ごす等、活動内容を調整している。また大型扇風機を使っても効果が得られない。スポットクーラー等の機器は費用や効果面で一長一短がある。今後も研究し、努めていく。

答弁（吉田総務部長）

本市では、子育て世代応援給付金をはじめ、がんばれ福井応援券事業等、様々な支援を行っている。限られた財源で独自で改めて支援を行うことは考えていない。

答弁（宮下建設部長）

公園や道路の不良箇所の情報提供システムは、通報者が写真や位置情報等を即時に送信できるため、自治体における導入事例も増えている。今後、調査研究し導入に向けた検討を進めていく。

# 市民の皆様から地域に対するご要望・ご相談に速やかに対応させていただきます！

## No.30 新田塚空き地前路肩の整備・舗装

道路より空き地が低く、雑草が生い茂り、路肩がわかりにくく歩行や車の走行が危険でした。



スマホで「安心安全のまちづくりマップ」をご覧ください。写真のNoが地図上に記載してあります。

地域実績  
マップ  
QRコード



## No.31 二宮4丁目道路補修

下水工事の跡で路面が陥没、車の走行等、危険でした。



安心安全の  
まちづくり

## No.32 JR 福井駅多目的トイレ

バック等を置く場所が無く荷物置きを取り付けました。

扉の立付けが悪く開閉が困難、修繕しました。



ホームページ  
QRコード

今年度は  
「予算特別委員会副委員長」  
「教育民生委員会副委員長」  
として活動しています。

ご要望・ご相談等ございましたら  
お気軽にご連絡ください。

〒910-0065  
福井市八ツ島町 15-1-4

電話・FAX 0776-92-0686



LINEでも  
お気軽に！



E-mail kaoritsuda2018@yahoo.co.jp